

しよけん

いんせいしや

アテナイ人諸君、諸君が私の告発者の

べんろん

いんしょうう

弁論からはたしていかなる印象を受け

わ

たか、それは私には分らない。が、彼

らの言葉はとにかく私をしてほとんど

じしん

わす

ほご

私自身をさえ忘れさせた程であつた。そ

せつとくりよくもつ

かた

れほどの説得力を以て彼らは語つたの

である。それにもかかわらず彼らはひと

いじふ しんじつ

かた

言の眞実をも語らなかつたといつてよか

は

おお

きよげん

らう。しかも彼らの吐いた多くの虚言の

おどろ

うちで、なかんずく私を驚かした一つの

いじふ

ゆうべんか

事がある。すなわち彼らが私を雄弁家

となし

その私あざに欺あざかれあざないあざように諸君しよくんは警戒けいかい

しなければならぬといつた事ことがそれであみずか

る。なぜといえは、私が口を開いて自みずか

寸毫すんごうも雄弁家ゆうべんかではないことを示しめせば、彼

らの謬言びゆうげんは立ち所たに実証どころによつて私じっしやうの

覆くつがすところとなるべきにもかかわらず、

なおこの言げんを為なして自みずから恥はじなかつた

といふことは、彼らの最もつとも無恥むちなる点と

私には見えたからである。(もつとも彼

らしんじつが真実かたを語る者ゆうべんかを雄弁家と呼ぶとす

れば格別かくべつであるが)

もし彼らの意味いみするところが「」にあ

みずか

るならば、私は自らみずか(もとより彼らとは

べつよう

いみ

いっしゆ

ゆうべんか

別様の意味において)一種の雄弁家であ

みと

いまもう

とお

ることを認めてもよい。今申す通り、彼

ひつじとしんじつ

かた

らはほとんど一語も真実を語らなかつた

くさう

はん

といつてもいい位であるが、これに反し

しよぐん

ぜんしんそう

き

て諸君は、私の口からは、全真相を聴く

しよぐん

であろう。もとより、アテナイ人諸君、

しよぐん

き

諸君が私の口から聴くべきところは、ゼ

かみ

じつ

れいく

ウスの神かけて、彼らのそれの如く麗句

びじ

もつ

かざ

こうみよう

えんぜつ

と美辞とを以て飾られた功名な演説で

はない。

むきじう

おも

じう

それは無技巧に思いつくままに濁らさ

じうば

かた

るる言葉である。けだし私は私が語ると

ただ

しん

したが

しよくん

ころの正しきを信じている。従つて諸君

ひじう

いがい

のうちの一人といえども、それ以外のこ

きたい

しよくん

しよくん

とを期待してはいけない。諸君、諸君の

まえ あら

せいねん こと

ぎじう

じう

前に現われて青年の如く技巧を凝せる

べんぜつ ろう

ねんれい

弁舌を弄するようなことは、私の年齢

からいっても少しもふさわしくないの

ある。